

IPA 賞対象部門及び受賞者

■ 各部門の趣旨

1. ソフトウェア部門

ソフトウェアの分野（オープンソフトウェアの分野を除く）において、機構の支援を受けて、独創性および社会的波及効果が高い等、優れた開発成果をあげた個人又はグループ若しくは機構の支援を受けて開発した成果を早期に事業化した個人又はグループ。

2. オープンソフトウェア部門

オープンソフトウェアの分野において、機構の支援を受けて開発した成果が優れており、社会的波及効果が高い等、優れた開発成果をあげた個人又はグループ若しくは機構の事業を通じて、オープンソフトウェアの整備及び普及に貢献した個人又はグループ。

3. ソフトウェアエンジニアリング部門

機構の事業を通じて、ソフトウェアを短納期及び低コストで開発するための評価及び改善手法の開発、標準化及び普及等の実施により、ソフトウェア開発手法の向上に貢献した個人又はグループ。

4. 情報セキュリティ部門

機構の事業を通じて、又は機構と協力・連携して、ウィルス・不正アクセス対策、脆弱性対策、暗号技術又はセキュリティ評価・認証その他の情報セキュリティに関する開発、標準化及び普及等の実施により、情報システムの安全性の向上に貢献した個人又はグループ。

5. 人材育成部門

機構の事業を通じて、又は協力・連携して、IT スキル標準の整備及び普及又は中小企業及び地域の IT 化の支援又は情報処理技術者試験の運営又は天才プログラマー／スーパークリエイターの指導等の実施により、IT 分野の人材育成の促進に貢献した個人又はグループ。

6. 事業化支援部門

機構が過去に支援した企業の事業化支援に貢献した個人又はグループ。

7. IT 化促進部門

機構の IT 化促進等の事業に貢献した個人又はグループ（上記 1. から 6. までに該当するものを除く）。

■各部門受賞者の詳細（敬称略）

ソフトウェア部門

(1) 受賞者

すげうら たかゆき
杉浦 隆幸（ネットエージェント株式会社 代表取締役社長）



(2) 受賞者の功績

ファイル共有ソフト、インスタントメッセージ、メール等で情報を送信する際に、外部へ送信すべきではないコンテンツをフィルタリングすることによって、外部への情報漏洩を防止する「One Point Wall」を開発した。簡単な導入、操作によりファイル共有ソフト等の通信を止めるだけではなく、一般的なファイアウォールでは防ぎきれないコンテンツを個別に判断して、ブロックするブリッジ型ファイアウォール¹製品である。

- ・ NetWorld+Interop 2004 Tokyo の Best of Show Award にて、ネットワークセキュリティ製品部門 グランプリ受賞
- ・ 2006 年東京都ベンチャー技術大賞において特別賞受賞

(3) 選定理由

ファイル共有ソフト等による情報漏洩の被害は、単に個人情報の漏洩にとどまらない深刻な社会問題となっている。

同氏は、情報漏洩、違法ファイルの発信、メールアドレス漏洩等を防止する製品の開発を通じ、ソフトウェアの発展に貢献した。

¹ ブリッジ型ファイアウォール：OSI 参照モデルの第 2 層（データリンク層）で動作し、ネットワーク間のデータを中継する機能を持つ。透過的に動作するため、ネットワークの再設定は不要である。

2. オープンソフトウェア部門

(1) 受賞者

ささだ こういち

笹田 耕一 (東京大学大学院 情報理工学系研究科 創造情報学専攻 講師)



(2) 受賞者の功績

Ruby²を高速に実行するための処理系「YARV³」を開発した。「YARV」は2007年12月にRuby 1.9.0に組み込まれてリリースされている。

- ・2004年度未踏ソフトウェア創造事業（未踏ユース）採択/スーパークリエイター認定
- ・2005年度上期未踏ソフトウェア創造事業および2006年度下期未踏ソフトウェア創造事業採択
- ・2007年度日本OSS貢献者賞受賞

(3) 選定理由

YARVの開発者としてRubyの高速化に貢献しているほか、日本Rubyの会、Ruby会議、Rubyist Magazine等のRubyのコミュニティ活動を継承しつつ、Rubyの普及・促進にも大きな影響を与えている。学生時代よりYARVの開発を進めており、大学において学んだコンピュータの基礎理論を駆使して地道な言語処理系を実装した点、コミュニティ活動に積極的に参加している点が多いに評価でき、オープンソフトウェアに関わる学生（若手研究者）のひとつのロールモデル（模範）ともいえる。これらにより、Rubyを始めとするオープンソフトウェアの発展と普及に貢献した。

² Ruby：まつもとゆきひろ氏が開発したスクリプト言語とその処理系。

³ YARV：Yet Another Ruby VMの略。Rubyを高速に実行するための言語処理系。

3. ソフトウェアエンジニアリング部門（その1）

(1) 受賞者

まつもと けんいち

松本 健一（奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授）



(2) 受賞者の功績

ソフトウェア開発に関する実証的なデータを収集・分析し、プロジェクト管理やプロセスの改善、製品の品質向上に役立つ「エンピリカル・ソフトウェアエンジニアリング」を実践する環境を実現した。

特に、ソフトウェア開発プロジェクト可視化ツール(EPM: Empirical Project Monitor) の開発を進め（40社以上で実証実験）、開発プロセス全体を効率化する施策の普及を図った。また総合部会などの部会活動やSECとの共同研究を通してSECの活動を技術的に指導した。

さらに、2005年度から2007年度には、SEC研究員の参加する14件の国際論文の発表を指導し（1件はBest Paper Awardを受賞）、また「エンピリカルソフトウェア工学研究会」を運営し、産学の研究者や技術者が活発に議論できる場を提供し、産学連携を推進した。

(3) 選定理由

IPAのEPMに関する事業に開発統括責任者として参画し、的確な助言を行うことによって、産学官連携の取り組みと現場の実践・実証に基づくソフトウェア工学の確立に尽力した。

EPMを導入した企業からは「プロジェクト全体の効率化が図れた」として、IPAの「エンピリカル・ソフトウェアエンジニアリング」に対する取り組みが高く評価されている。国内外へのSEC成果の積極的な提供を通じ、ソフトウェアエンジニアリングの向上に貢献した。

3. ソフトウェアエンジニアリング部門（その2）

(1) 受賞者

IPA/SEC プロジェクト見える化部会

【代表】

にしかわ ひろし
西川 廣

（新日鉄ソリューションズ株式会社）

【参加メンバー】

あきやま まさとし
秋山 雅俊

（株式会社 NTT データユニバーシティ）

いいた はじめ
飯田 元

（奈良先端科学技術大学院大学）

おおかわ しげき
大川 繁喜

（日本電気株式会社）

おおたか ひろし
大高 浩

（株式会社DTS）

かめた やすお
亀田 康雄

（NTTソフトウェア株式会社）

かわはら まさひろ
川原 雅宏

（株式会社アイネス）

きね ひでたか
木根 秀隆

（日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社）

くりた たもつ
栗田 存

（株式会社クロスリンク・コンサルティング）

くわばら ひでまさ
桑原 秀昌

（TIS株式会社）

こうむら もとむ
香村 求

（株式会社システムSWAT）

しばた あきら
芝田 晃

（三菱電機株式会社）

はいはら まさと
拜原 正人

（株式会社クロスリンク・コンサルティング）

ふくち ゆたか
福地 豊

（株式会社日立製作所）

みずの ますみ
水野 真澄

（株式会社日立システムアンドサービス）



（一段目左より 西川、秋山、飯田
二段目左より 大川、大高、亀田、
三段目左より 川原、木根、栗田、
四段目左より 桑原、香村、芝田、
五段目左より 拜原、福地、水野 の各氏）

(2) 受賞者の功績

2005 年度にソフトウェア開発の下流工程において、失敗につながる問題点を早期に「見える化」する方法を、また、2006 年度には上流工程において、プロジェクトの活動に大きな影響を与えるリスクを「見える化」する方法を検討し、翌年に SEC BOOKS としてまとめ発行した。

また、上記手法を SEC の先進ソフトウェア開発プロジェクトに適用し、その効果を実証するとともに、国内ベンダーに直接紹介し、各社のソフトウェア生産プロセスを「見える化」する支援を行った。

- ・「IT プロジェクトの『見える化』 下流工程編」 2006 年 6 月 19 日発行
- ・「IT プロジェクトの『見える化』 上流工程編」 2007 年 5 月 1 日発行

(3) 選定理由

同部会のメンバーは、長年に渡り蓄積されたプロジェクト・マネジメントに関する豊富な経験とノウハウを惜しみなく出し合い、プロジェクト・マネージャにとって有益な書籍およびツール（チェックシートやプロジェクトの事例集等）を成果としてまとめた。

これらの成果物は、経験が浅く、組織的な支援が得られないプロジェクト・マネージャにとっては特に有効で、失敗プロジェクトを減らすことが期待でき、SEC が目指す高品質で効率的なソフトウェア開発の推進に貢献した。

4. 情報セキュリティ部門

(1) 受賞者

おおた かずお
太田 和夫 (電気通信大学 電気通信学部 情報通信工学科 教授)



(2) 受賞者の功績

IPAとNICT(独立行政法人 情報通信研究機構)が共同で運用しているCRYPTRECプロジェクトの公開鍵暗号技術評価小委員会委員長、暗号技術監視委員会委員として、暗号技術の安全性評価、電子政府推奨暗号リストの策定に尽力した。ハッシュ関数MD5⁴を利用した暗号プロトコルが危殆化しつつある中、MD5を利用した電子メールシステムの認証プロトコル(メールサーバとユーザ間の使用者を認証するプロトコル)であるAPOPについて、ユーザのパスワードが漏洩する危険性を指摘し、さらに、各種メーカーの対応状況調査や当面の対策を検討した。

(3) 選定理由

電子メールの認証プロトコルとしてよく使われているAPOPの脆弱性について、脆弱性関連情報届出制度に従って届出を行い、危険性を指摘するとともに、当面の対策研究を迅速に行い、安全な電子メールの利用環境構築に寄与した。

APOPの脆弱性については、今後、クライアントソフトウェアベンダーが、同氏の研究成果により、対策パッチの配布等を行い、電子メール利用者のパスワード漏洩の危険性を低下させる事が期待される。

また、同氏の指摘は、改めてハッシュ関数MD5の危殆化がユーザに及ぼす影響について焦点を当て、暗号アルゴリズム世代交代の重要性に関する議論を活性化し、情報セキュリティの向上に貢献した。

⁴ MD5(Message Digest 5): 認証やデジタル署名などに使われるハッシュ関数(一方向要約関数)のひとつ。原文を元に固定長の「ハッシュ値」を発生し、通信経路の両端で比較することで、通信途中で原文が改ざんされていないかを検出することができる。

5. 人材育成部門（その1）

(1) 受賞者

まさの としかず

政野 俊和（鉄道情報システム株式会社 営業推進本部 第一営業企画部 営業企画課 主任）



(2) 受賞者の功績

情報処理技術者試験は、制度改定により 1994 年度秋期試験⁵から専門分野ごとに細分化し実施しているが、同氏は、現行試験制度下において、15 の試験すべて⁶（2000 年度をもって廃止となったプロダクションエンジニア試験を含む）に合格した。1994 年度以来、すべての試験に合格したことは初めての快挙である。

(3) 選定理由

情報処理技術者試験を活用し、専門分野のみならず幅広い知識・技能の習得に向けて自己研鑽に励んでいる。同氏が全試験区分を合格したことは、情報処理技術者試験の合格を目指す多くのエンジニアの刺激にもなり、IT 分野の人材育成の促進に貢献した。

⁵ 1994 年度春期試験までは、第二種・第一種・特種・オンライン・監査の 5 区分で実施。

⁶ システムアナリスト・プロジェクトマネージャ・アプリケーションエンジニア・プロダクションエンジニア・テクニカルエンジニア（ネットワーク）・テクニカルエンジニア（データベース）・テクニカルエンジニア（エンベデッドシステム）・テクニカルエンジニア（システム管理）・テクニカルエンジニア（情報セキュリティ）・システム監査技術者・情報セキュリティアドミニストレータ・上級システムアドミニストレータ・第一種情報処理技術者・第二種情報処理技術者・初級システムアドミニストレータ

5. 人材育成部門（その2）

(1) 受賞者

ふじもと りずむ
藤本 理澄（学校法人三木学園 白陵中学校 3年生）



(2) 受賞者の功績

2007年秋期に実施したソフトウェア開発技術者（SW）試験に合格した。受験時の年齢は14歳2ヶ月（1993年8月生まれ）であり、2001年から開始されたSW試験において、最年少の合格者となった。SW試験の前身である第1種情報処理技術者試験を含めても最年少である。

また、2006年秋期には、初級システムアドミニストレータ試験、2007年春期には基本情報技術者試験に合格している。

(3) 選定理由

合格者の平均年齢が20歳代後半であるSW試験を14歳2ヶ月で合格した。若年層の理工系離れが進む中、IT社会の今後を担う人材への刺激となり、若手IT人材の育成に貢献した。